

上庄をよくするつどい

1 基本データ

- 地区名 上庄地区
- 地区人口 約4, 200人
- 地区世帯数 約1, 100世帯
- 地区面積 28, 471[㊦]
- 地区の沿革

大野市は、昭和27年に2町6カ村が合併し市制を施行したが、6カ村の中の1つ旧上庄村が現在、上庄地区と言われている。

当地区は、32の集落（行政区）で構成されていて、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6[㊦]、南北約12[㊦]ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



- 実施主体 上庄をよくするつどい

地区のまちづくり組織「上庄をよくするつどい」は、地区内の全世帯のほか、関係機関や関係団体で構成されている。その運営については、各集落から選出された運営委員があたり、総務部、環境整備部、教育福祉部の3つの専門部に分かれ、それぞれの部門の事業を行っている。

また、毎年このよくするつどいを核として実行委員会を構築し、地区の夏祭りを8月の第1

土曜に実施している。夏まつりは地区住民による手づくりで、地区公民館の駐車場を利用して各種の団体やサークルなどが、日ごろの練習成果を屋外ステージで発表、また唐揚げや焼きそば、焼き鳥、バザーなどの出店もあり、地区民からは夏の恒例イベントとしての楽しみの一つに挙げられている。

2 現状と課題

(1) ふれあい電話帳作成事業

上庄地区には、以前より地区限定版の電話帳があり、全世帯に配布されている。

本電話帳には、集落ごとの世帯の電話番号の外に、地区内の公共施設、市の福祉サービス、無料相談等の連絡先の掲載もあり、地区住民には非常に好評であった。

しかしながら、作成して12年が経ち掲載内容が古くなったことや、今後、高齢者世帯や一人暮らし世帯が増えることが予想される中で、地区住民が安心して暮らせるよう新たな情報が掲載された改訂版の電話帳作成の要望の声があった。

(2) イベント備品整備事業

上庄地区では、上庄をよくするつどいを中心にこれまでも各種団体が、毎年、種々の事業に取り組んでおり、地域内の世代間交流や地区活性化に努め、地域の賑わいづくりを図ってきた。

特に、地区の一大イベントである地区夏まつりは、前述したとおり、毎年、実行委員会を組織し、地区住民の手づくりによる夏まつりを実施し、毎年多くの来場者で賑わっている。

また、地区体育大会や敬老会も秋の収穫繁忙期にもかかわらず多くの参加者が集い賑わいを見せている。

しかしながら、使用備品は老朽化や借用備品が多く、イベントの拡充や新たな企画、提案が

出来ないこともあり、実行委員会等では備品整備の要望があった。

(3) 登山道周辺整備事業

広大な山林を抱える当地区は、銀杏峰や荒島岳をはじめとする美しい山々があり、登山シーズンには多くの登山者が訪れ、地域の賑わいを見せている。

銀杏峰には、毎年700人から800人のも登山者が登ると言われ、出発点である麓の宝慶寺いこいの森などは、シーズンになると多くの登山者で賑わっている。

しかしながら、山頂までは約3時間かかることから、途中、水飲み場や休憩所の要望があった。



銀杏峰登山コース

3 事業の内容

(1) ふれあい電話帳作成事業

作成にあたっては、従前の電話帳を基に、今回も世帯電話番号の外に、区民が日常必要とする情報や災害、福祉等の情報も掲載することとし、誰もが気軽に利用できる電話帳になることを念頭に作成することとした。

そのため、掲載内容や編集については、若年層から高齢者まで幅広い年齢層の意見を集約す

るため、各種団体からの構成による作成委員会を設置した。

また、世帯の電話番号は、個人情報进行调查することにもなるため、区長会にも依頼し1件1件の確認を区長にお願いし、ふれあい電話帳の改訂版の作成についても区民に周知していただいた。

作成委員会は、計5回開催し、掲載内容の有無や記載方法について何回も議論した。

その結果、掲載内容は、電話番号の他、福祉サービスや防災マップ、また、地区の史跡・名跡なども掲載し、地区民に親しみのある電話帳を作成することができた。



作成委員会の様子

(2) イベント備品整備事業

地区夏まつり事業において、これまで個人からアンプ、スピーカー等の音響備品を借用していたが、旧式であること、又、今後借用が難しくなっていくことから、新たに購入した。また、スピーカー等については、地区体育大会や敬老会でも借用していることから併用して使用していくこととした。

更に、テントについても集落や各施設から老朽化したテントを借用していたが、夏まつりでは、事業拡大のため、新たにテントを購入し、イベントの拡大に努めた。

(3) 登山道周辺整備事業

今回は、まず登山者の水飲み場を確保するため水溜から水飲み場間にパイプを敷設することとした。小葉谷登山コースの途中で水飲み場を確保するために、地元木本地区民が主体となり、里山銀杏峰を愛する会の協力を得ながら、40mと50mの水引パイプ計12本をジョイントし、水溜まで人力で荷上げし敷設していった。総延長は約500メートルの敷設となった。

水溜には、プラスチック枡を重石、針金等で固定し、山水を枡に溜めパイプ取水口には穴を開け大量の水が流れるよう設置した。

険しい山中であるため、重機や車等は入れず、パイプ、部品等運搬には労力を要した。



取水枡設置状況

4 事業の成果

(1) ふれあい電話帳作成事業

作成委員会を設置し、手づくりによる電話帳を作成することで、地区独自の電話帳を作成することができた。また、委員会構成による協働作業により各団体間や世代間の交流が図られた。

さらに世帯の電話番号は、集落単位で作成協力をお願いすることにより、集落のコミュニティや地域協働が醸成され、地域の連帯感が高められた。

地区内の連絡網の整備の外、福祉サービスや

相談・防災、地区住民の共有情報が掲載された電話帳の作成で、緊急時や困惑時などにも活用でき、地区住民が安心して暮らせる一翼を担う電話帳を作成することができた。



ふれあい電話帳

(2) イベント備品整備事業

イベント備品整備による安定した事業内容の充実

① 夏まつり出店協力者団体の増

出店者が、昨年度の12団体から16団体が増え、メニューも増えたことで会場の賑わいが増し、よりグレードアップしたまつりとなった。



出店増となった夜店

- ② 夏まつり規模の拡大による来場者の増
出店者の増大とともに出演団体も2団体増
え、それに伴い来場者も昨年度を約200人上
回る規模へとなり、最後の花火打ち上げまで
多くの来場者で賑わった。



来場者でにぎわう夏まつり会場

- ③ 音響設備の購入による新たな演出
スタンドマイクの新設、モニタースピーカ
ーの導入により、効果音が出せたり、1グル
ープで多数の出演が可能となり、出演者にも
大変喜ばれた、また、観客も大いに楽しんで
もらえた。



夏まつりでのプラスバンド演奏

- (3) 登山道周辺整備事業

今回は、水飲み場の設置のみであったが、登
山者から望まれていたうちの一つが整備され、

今後は、登山者は給水しながら登山が可能とな
り、気軽に安心して登れるようになった。

また、今回実施したパイプの敷設は、関係地
区住民の協働作業であり、地区住民にとっても
地元山への安全対策の意識や郷土愛が醸成され
た。



飲み水排水口

5 今後の展望

- (1) ふれあい電話帳作成事業

地区内限定版の電話帳として地区住民に利用
いただくとともに、福祉サービス・相談の案内
情報や緊急時の対応についても、家庭や区の例
会等で確認いただき、地区住民が安全・安心に
暮らせるよう地域の連帯感や絆を図っていき
たい。

- (2) イベント備品整備事業

「上庄夏まつり」は今年度で22回目を数え
たが、前年度の当事業の継続により、次年度か
らはこれまで以上のイベントや出演、出店者
を募ることが可能となった。

本事業でハードの整備ができたので、今後は
企画等のソフトの部分を充実していきたい。ま
た、地区の敬老会や体育大会にもこれらの備品
を活用し、多くの住民が参加できるような企画
や受け入れ態勢を検討していきたい。

(3) 登山道周辺整備事業

登山道整備には多様な整備が必要であるが、本事業では登山者から要望のあった水飲み場が確保できた。

今後も、行政機関と連携しながら、地元住民として、休憩所や案内看板、登山道の整備等にも協力していきたい。